

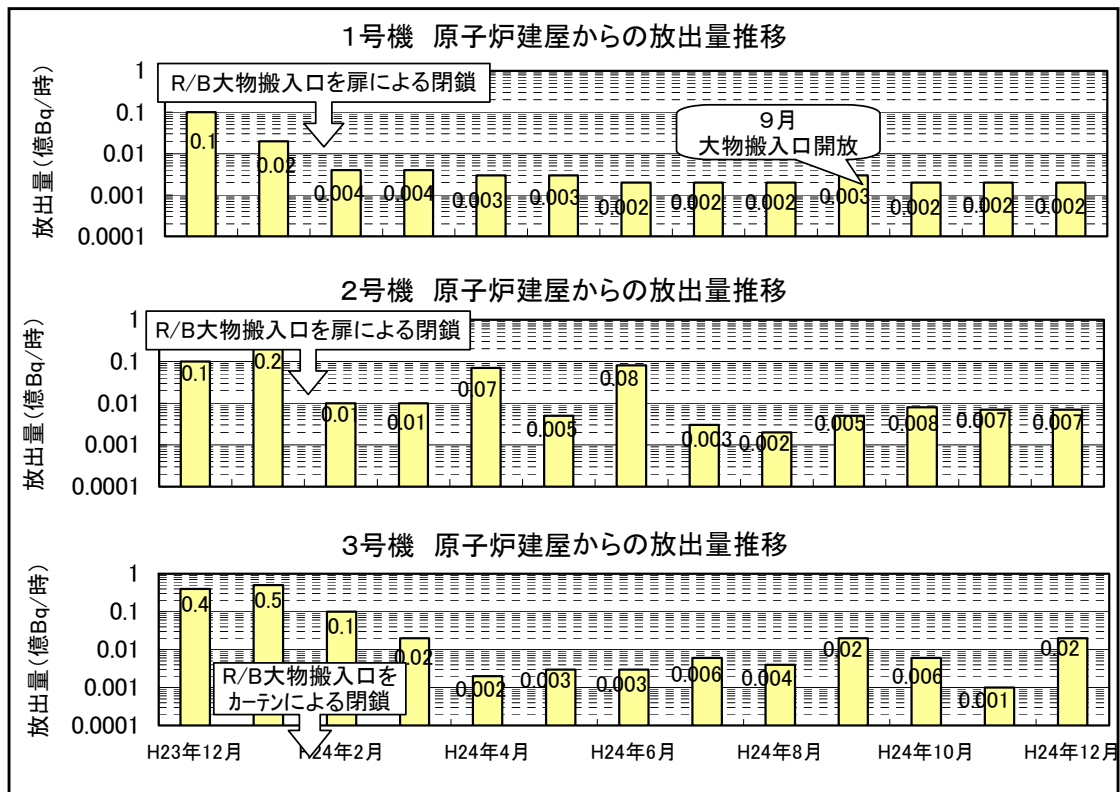
原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果

○1～3号機原子炉建屋からの現時点の放出量（セシウム）を、原子炉建屋上部等の空气中放射性物質濃度（ダスト濃度）を基に評価。（各号機の採取地点は別図参照）

○放射性物質が舞い上がるような作業が行われていない状況および大物搬入口も閉塞された状態で測定。

○このため、1～3号機の放出量の合計は、先月公表時の約0.1億ベクレル/時から変化なしと評価。これによる敷地境界における被ばく線量は0.03mSv/年と評価。

○号機毎の推移については下記のグラフの通り。



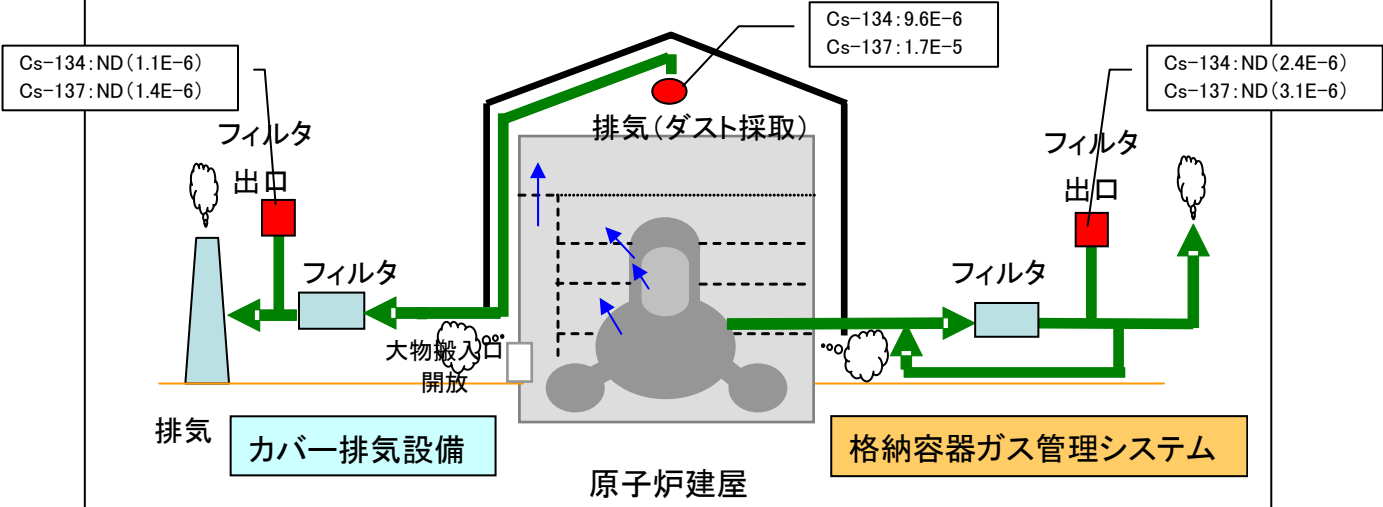
※ 放出量についてはCs134とCs137の合計値である

(備考)

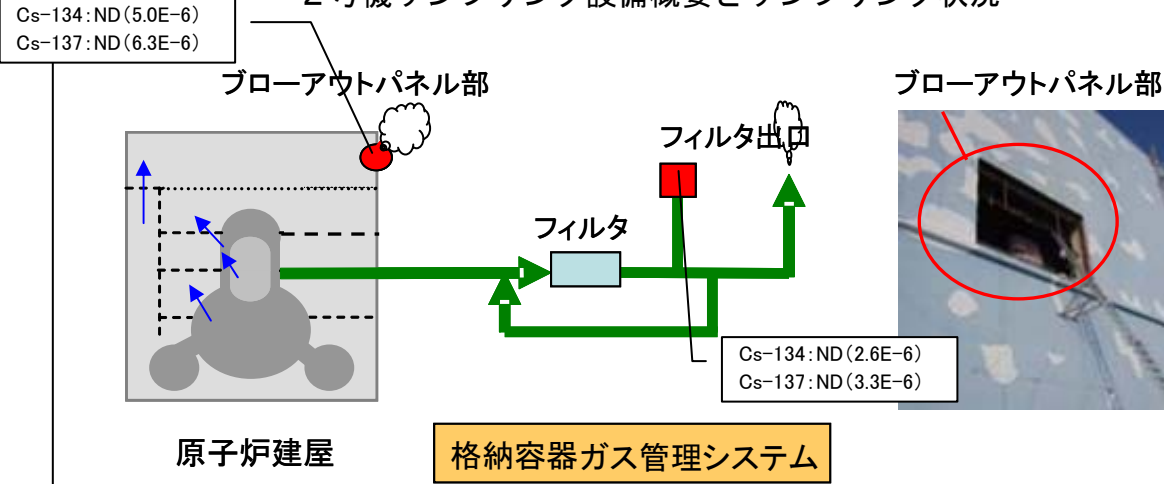
- ・ 1～3号機の放出量の合計値は0.029億ベクレル/時であり、原子炉の状態が安定していることから、前月と同様に0.1億ベクレル/時と評価している。
- ・ 3号機の放出量の増加については、ダスト濃度は先月とほぼ変わりが無いものの、風量の増大による影響が大きかったものと評価している。
- ・ 希ガスについては、格納容器ガス管理設備における分析結果から放出量を評価しているが、放出されるガンマ線実効エネルギーがセシウムに比べて小さく、被ばく経路も放射性雲の通過による外部被ばくのみとなるため、これによる被ばく線量は、セシウムによる線量に比べて極めて小さいと評価している。

← : 放射性物質の流れ(想定)

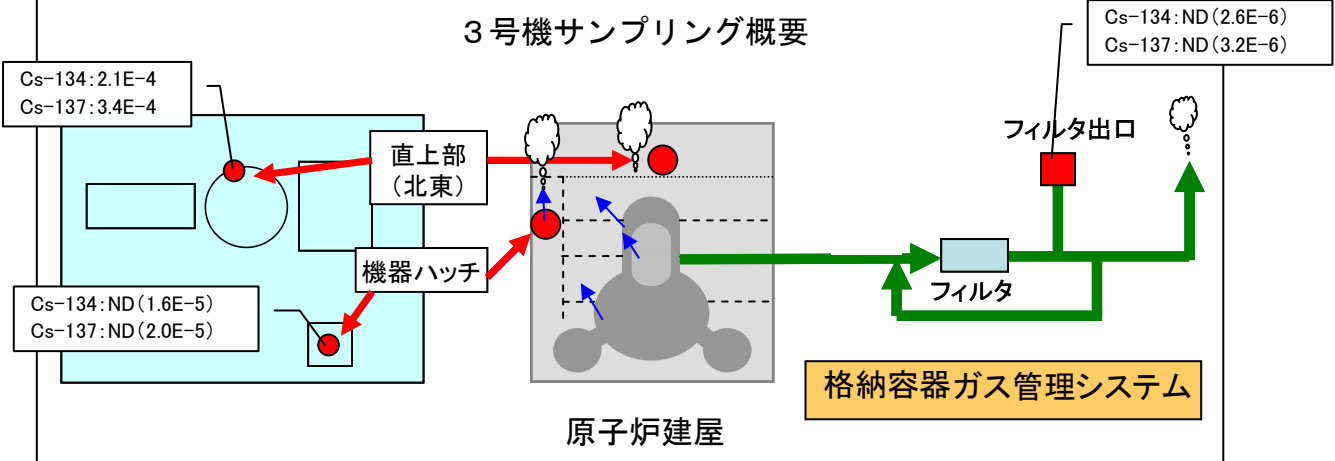
1号機のサンプリング設備概要



2号機サンプリング設備概要とサンプリング状況



3号機サンプリング概要



※吹き出しの濃度は、12月に採取し、評価に用いたダスト濃度を示す。(単位: Bq/cm³)
検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載し、括弧内に検出限界値を示す。